

皆さん、こんにちは。城北支部広報部です。前回に引き続き、「診断士1年目の会 2015」幹事の大森先生のその後です。

本記事に関しては今月末に配送されます TOKYO SMECA ニュース 4月号の東京協会だより（ページ19）に「診断士1年目の会 2015 ～価値創造とこれからの診断士、自分について考え、新たな繋がりを築いた日～」という記事が掲載されます。執筆者は三多摩支部 丸尾和子先生です。こちらも合わせてご覧ください。

1年目の会の幹事を終えて～後半～ 城北支部 遠藤康平 先生

Q 事態をどのように打開したのですか？

第一の助けとなったのは、清水副支部長の激励のお言葉でした。自分のモチベーションが低下しようが、すでに「一年目の会」に期待する同期の仲間がいることを思い出した私は、「切り札」としてある方に連絡を取りました。

第二の助けとなったその方とは、「すぎけん組」の同期で、私の尊敬する人生の先輩とも言える人物でした。その方に、非公式の幹事打ち合わせに参加をお願いし、事態打開の具体的なアドバイスを得ようと思いました。そのとき言われたことを、紙面でほぼそのまま再現いたします。

「えんちゃんは、自分で抱え込み過ぎているように見えるよ。他の幹事の皆さんは、いい人たちばかりのようだけど、どうして信頼できないの？」その言葉は衝撃的でした。いつの間にか、幹事の仕事をすることが苦痛になっていました。そして、その結果、私は当初から自らの役割と自認してきた「アーキテクト」であることすら投げだそうとしていたのです。

第三の助けは、私が講演をお願いした千種伸彰先生でした。千種先生を交えた打ち合わせを経て、他の幹事との距離も自然と縮まっていきました。そして、私は自身のわだかまりをいつのまにか手放すことができていました。

Q そして本番当日をどのように迎えたのですか？

たびたびの清水先生の激励。出席者数が伸び悩む中、酒井会員部長に対象者へのリマインドについて相談などもしました。その結果、朝倉支部長のアドバイスと強いコミットメントも得ることができ、わが城北支部の出席者は全支部中最多という快挙を達成しました。

三つ目の目標『「一年目の会」を城北一色に染め上げること』が達成されました。それでも、いまいち気乗りしない私の励みとなったのは、秋の新人歓迎会で会った同期合格者の方たちとの再会でした。

ご来賓の小黒会長、米田副会長ならびに田中東京協会会員部長には、予定にはないグループワークの講評までしていただきました。

多くの方の励ましと助言の末に、「一年目の会」幹事をなんとか勤め上げることができました。

Q 終わってみての感想は

この場お借りして同士だった各支部の幹事たちにお礼と、城北支部内でこれまでお名前を挙げさせていただいた皆様を始め多くの 諸先生方。講師オファーの取り下げについて相談に乗っていただいた東京協会の会員部長、ならびに会員部の皆様。東京協会の事務局としてご尽力いただいた吉村さま。こうして、これまでの思

いを形にする機会をご提供いただいた八巻先生以下、広報部の諸先生方。そして、ご参加いただいた同期診断士の諸先生方。多くの感謝を胸に、今は次年度「一年目の会」幹事に向けいかに「思い」を繋げるか、日々思案する毎日です。

※なお、前号（第15号）及び本号（第16号）に掲載しました記事は、遠藤先生のご説明をもとに広報部が編集したものであり、事実関係を確認できているものではございません。ご了承願います。

【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

①皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

②皆さまが知りたいことを教えてください

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
 - ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。
- ⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

③読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

④本誌編集スタッフ募集中

- ・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。

問い合わせ先 城北支部広報部：

johku.kouhou@gmail.comまで よろしく願い致します

JOUHOKU SHINDAN 誌

～1年目の会（後半）～

2016年3月21日発行

発行者：城北支部長 朝倉久男

編集者：城北支部 広報部